

(様式第7号)

地域の課題解決のための活動報告

記入日: 令和4年6月15日

作成者: 浅井義也

団体名	日本郵趣協会 関西地方本部 芦屋郵趣会
事業名	世界の切手展(アシペックス'21)
日時	令和3年11月13日(土)~11月15日(月)
場所	芦屋市民センター 3F 常設展示室(芦屋市業平町)
活動内容	<p>今年の世界切手展(アシペックス'21)は12名の会員の14作品が出品された。主な作品名は「東北の鉄郵印」、「東京オリンピック」、「東海道新幹線」、「ポインセチア」、「日本の美術」、「スペインの名画」、「フェリー水上交通」など交通、植物、スポーツ、美術、人物など多岐の分野にわたっている。作品は会員が約半年かけて来場者の関心が多いテーマを選び準備した。</p> <p>今年も日本郵趣協会から切手カタログ40冊が提供され来場者に渡すことができた。</p> <p style="text-align: right;">参加者: 120名 受益者: :60名</p>
活動成果	<p>切手展には120名を超える芦屋市民や切手収集家が集まった。今年はコロナで来場者の大幅減が予想されたが自宅での待機が長く続いたことから外に出掛ける人がかえって増えたようだ。今年も会員が会場に待機し参加市民の質問に丁寧に答えていた。切手収集は切手の価値が将来上ることを期待する人が見受けられたが、本来の切手収集は切手が発行された意義を調べることに面白さがあると説明してしていた。今回も芦屋市民と会員との間に交流が生まれ切手収集の面白さを理解してもらえたと思う。</p> <p>今回の切手展の開催後に2名の芦屋市民の入会があったことは芦屋郵趣会にとって大変ありがたいことであった。</p>
今後の展望	<p>このような切手展は過去20年近く開催されている。市民の参加も年々増加しており、関心の深さが思われる。たかが1枚の紙の切手ではあるがそこに描かれている図案には大きな展望が含まれていると思う。従って今後この切手展を長く続けていきたい。</p>